学会通信 第 12 号

2025 年 10 月

■第 3 回聖隷国際教育学会 年次大会 開催報告

2025 年 8 月 9 日（土）、午前は「はまこら」、午後はプレスタワー17 階ホールにて、第 3 回聖隷国際教育学会年次大会を開催しました。

参加者数：198 名（会員・教育関係者・学生・保護者など）

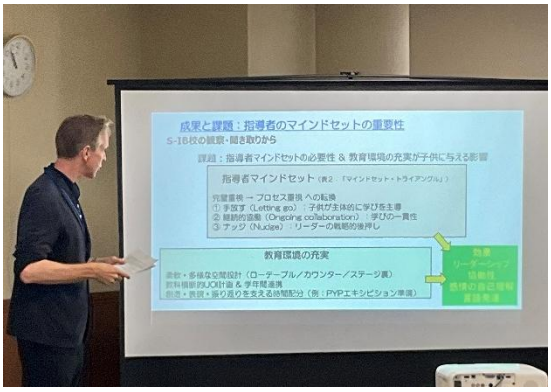
午前：分科会・総会・交流会（@はまこら）

午後：記念講演会・交流（@プレスタワー）

終了後：卒業生との交流会（マインシュロス）

【研究会（分科会）】

3 会場で 9 本の発表が行われ、保育・初等教育・実践研究など多様なテーマについて活発な議論が交わされました。今日の教育、心理の学問分野における課題を発表者各自の視点から追究し、地域社会に還元できる結果を示して下さいました。今回の発表をもとに、更に分析方法や事例を積み上げ、継続的な発表を期待しております。貴重なご発表の数々、大変ありがとうございました。



【記念講演会】

講師：　工藤勇一氏（教育改革実践家）
演題：「社会の変化とこれからの学校教育～主体性と当事者性～

参加者の満足度：大変満足 89.8%、やや満足 10.2%（不満 0%）
主な学び：「主体性と当事者性の理解」「実践への具体的示唆」「教育観のアップデート」「明日から実践に生かしたい」「社会全体が聞くべき内容」との声多数

今回の講演会は、参加者にとって「主体性と当事者性の理解促進」と「教育実践への動機づけ」に大きく寄与しました。教育現場の教員のみならず、保育者、保護者、学生まで、多様な層が学びと変化を実感した点が特徴です。講師の熱意と具体的な実践例は、教育の未来を考える上で大きな刺激となり、今後の学会活動や教育実践に確かな影響を与える講演会となりました。

【アンケートの声（抜粋）】

〈自由記述に見られた学びと気づき〉

多くの参加者が「主体性」「当事者性」というキーワードに強く反応しました。「主体性と当事者性の意味を整理できた」「子どもの自己決定を尊重する重要性を実感した」など、教育の本質に関わる学びが報告されました。「2 択を与える声かけ」「プロセスを認める関わり」といった具体的な実践例が印象的で、すぐに現場に応用できるとの評価が多数寄せられました。また「自らの指導をメタ認知しアップデートする必要を感じた」という記述も多く、自分自身の教育観や実践を見直すきっかけとなったことがうかがえます。

〈自己変容・意識の変化〉

参加者の多くが「教育観をアップデートしたい」「明日から実践に取り入れたい」と強く意欲を示しました。「保護者や地域も含めて意識を変える必要がある」「社会全体が聞くべき内容」との声もあり、個人の学びを超えて社会的広がりを期待する記述も目立ちました。自分の授業や子育てを振り返り、「改めたい」「勇気づけられた」と述べる意見もありました。

【卒業生との交流会】

卒業生と在学生、教員が一堂に会し、現状報告や教育現場での取り組みについて意見交換を行いました。交流を深める貴重な時間となりました。

■学会誌投稿のご案内

学会研究誌『聖隷国際教育研究』第 3 号への論文・実践報告を募集しています。

エントリー締切：2025 年 11 月 30 日（日）

原稿提出締切：2026 年 1 月 4 日（日）

発行予定：2026 年 3 月末

エントリーについては、学会からのメール（9 月 23 日配信）もしくは学会 HP をご確認ください。

■学会費納入のお願い

年度会費の振込をお願いいたします。
学園個人会員（教職員）：2,000 円
一般個人会員：3,000 円
学生会員：500 円
法人会員：10,000 円
本学教員会員：8,000 円

振込先
遠州信用金庫 中川支店（店番 020）
普通 0178045
口座名：聖隷クリストファー大学国際教育学会
会計 渡邉拓真

■編集後記

大会には 198 名が参加し、研究・講演・交流を通して教育の未来を語り合う充実した一日となりました。今後も皆様と共に学びを深めてまいります。

お問い合わせ：kokusai-gakkai@seirei.ac.jp